

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 桜井 光一

作成日 2024年2月26日

【責任】

生命科学分野に所属し、専門科である生化学を中心とした教育・研究活動を行なっている。主たる教育活動は生物関連科目を中心とし、科目責任者として生化学Ⅰ・薬学基礎実習Ⅱの2科目と卒業研究を担当し、総合演習Ⅱ（再履修）、介護福祉体験実習、薬学基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、総合演習Ⅱを分担している。大学院である薬学部臨床薬学専攻において、病態制御医薬品学を科目責任者として担当している。

【理念】

学生への希望は、不思議に思うことの間を研ぎ澄まし、そのことをあきらめずに考え続け、最終的に研究マインドを持つ薬剤師となることを期待している。生命は、物理化学の法則にしたがって進行し、生命現象は連続的の化学反応の結果であり、連続性の停止が生命体の死である。薬は生体成分と化学物質の化学的相互作用に基づき作用し、このことを踏まえて薬の効果と副作用を患者に説明できることにより薬の専門家を育成したい。世界中の医療は日々進化していることから、大学において次の2点について学生は身につけることを希望する。一つ目は、日々更新される知識や医療技術を習得できる能力、すなわち「学び方を知る」ことの大学における獲得である。二つ目は、目の前の事象を当たり前と考えず、「多様な視点から価値を作り上げる」能力の修得である。学生には、基礎能力として問題点をピックアップし、解決方法を考え、実施できる能力を身につけてほしい。応用として、臨床体験を通して生じる問題を、物質の化学的側面から捕らえ、解決を試みる研究マインドを持つ薬剤師となることを希望する。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために1年生の生化学Ⅰにおいて、生体構成成分の化学的性質と反応性および恒常性を理解する方針で教育している。PowerPoint等のプレゼンテーション用のツールを用いて講義内容の理解を深め、必要及び重要な事項を大きく割いた余白に書き込み、授業を理解するために自分のための資料作りを推奨している。このことにより、専門用語を理解できること、生理現象を不思議に思いその機構を推察すること、問題点を考えること、授業内容を理解することを習得することを目指している。1年次生化学Ⅰにおいて、生化学の知識習得の確認は、講義中にPCまたは携帯電話を利用した小テスト(10問/回を5回、問題はランダムに出題)を実施する。これは隣の学生の解答の順番が異なるために試験条件を必要としないメリットがある。また、これまでの講義で効果的であった、毎講義で課題を与え、授業内容を振り返らせることを実施する。

2年生の薬学基礎実習Ⅱでは、実験を通して物質の化学的性質や反応性を確認し、問題点のピックアップや実験方法工夫と実験結果のまとめ方を指導している。主に5年次における薬局及び病院実習に必要な共通テスト対策としての総合演習Ⅰでは、多くの問題に取り組むことを目指して練習問題に多く接して理解するPBL方式の講義を行っている。

卒業研究においては、問題発見、解決方法の実施、まとめおよび学会発表を経験することを基本理念としている。実験の背景を熟知させ、先端の技術を伝授したのち、学生がなるべく考え、事象の変化が気付くように観察させる実験研究を実施している。いわゆるPBL方式で考える力を身につけさせたいと考えている。学会発表を多くの学生に実施させることにより、学生に自信を持たせて可能性がある自分自身を自覚させる指導を行っている。卒業研究を通して、応用力を身につけ、薬剤師国家試験に対応できる思考力の習得も目指したい。

【成果・評価】

- ・ 薬剤師国家試験における生化学Ⅰの正解率の推移で理解度を推定する。
- ・ 担当した講義科目の授業評価アンケートにおいて、多くの学生が授業内容に満足、興味を持って授業に取り組んだと回答している。
- ・ 小テスト実施により、学生の形成的評価を行う。
- ・ 課題を提示することにより、事後学習を促進する。
- ・ 授業評価コメントとして、「生化学の楽しさや生理反応における化学の重要性の認識し、熱心に取り組むことができた」との記述も多く認められた。
- ・ 卒業研究では、実験手技の修得、卒業論文作成の指導、担当学生の全員の学会発表を指導している。
- ・ 大学院生に対しては、国際学会での発表、学位論文作成とともに研究マインドを持った薬剤師としての教育と就職指導も行った。
- ・ 研究成果は高いインパクトファクターの英語論文に掲載する。

【目標】

短期目標

- ・ 学部学生に対して、英文輪読会を開催して、世界で活躍できる薬剤師を育成する。
- ・ 日々の生活において問題点を探し、医療に役立てる能力を身につける。
- ・ 薬学の基礎的知識と薬剤師の臨床現場で用いられる技術の融合を図る。

長期目標

- ・ 研究マインドを持った薬剤師を育成するために、大学教員と医療現場の薬剤師が協力して、問題点を提起して、解決するプロセスを提示・指導・評価するシステムや関連するイベントを企画・運営したい。